第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社　学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	いずみ青葉台保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 安宅 悦子	定員（利用人数）：	70 （77 ） 名
所在地：	227-0062 神奈川県横浜市青葉区青葉台二丁目8-27		
TEL：	045-989-2133	ホームページ：	https://izumi-yokohama.net/aobadai/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日		2006年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：		社会福祉法人　いずみ	
職員数	常勤職員： 22 名	非常勤職員：	0 名
専門職員	保育士 26 名	栄養士	2 名
	看護師 1 名	調理員	3 名
	用務員 0 名		
施設・設備の概要	居室数： 保育室７、事務室１ ホール１、地域支援室１ 調理室１、調乳室１	設備等：	トイレ（子ども３）、 トイレ（大人３）、 エレベーター

③理念・基本方針

子どもは生まれながらにして育つ力、生きようとする力を秘めています。そして、この世の中でたった一人のかけがえのない存在として、周りの大人から愛され、認められ、幸せに生きる権利があります。その子どもたちが現在を最もよく生き、望ましい未来を作りだす力の基礎を培うために、私たち大人は環境を整え、適切な援助をし、幸せに生きる権利を保障していかなければなりません。特に保育所は乳幼児が生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期に生活の大半を過ごすところです。当園は子どもたちの健やかな成長と幸せを願って、次の保育の基本方針、保育目標を掲げています。

１．当園は良質な水準かつ適切な内容の保育・教育の提供を行うことにより、全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指します。
２．保育・教育の提供にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進するため、利用子どもの意思及び人格を尊重して保育・教育を提供するよう努めます。
３．当園は利用子どもの属する家庭及び地域との結びつきを重視した運営を行うとともにその支援を行い、都道府県、市町村、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者、他の児童福祉施設その他の学校又は保健医療サービスもしくは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めます。

④施設・事業所の特徴的な取組

当園は田園都市線「青葉台」駅より徒歩5分の緑豊かで日当たりのいい高台にあり、丹沢山地や富士山をのぞむことができます。園周辺は住宅街で、木々に囲まれ豊かな自然を感じる事ができる環境です。はだしで遊べる人工芝とゴムチップの園庭があり、大型遊具、砂場、築山で子どもたちは毎日元気に遊んでいます。近隣には公園もあり、雨天以外は散歩や自然探検に出かけ、四季のうつろい、草花を楽しみ、美しいものに感動する心をはぐくんでいます。建物の2階には風が通り抜ける大きい広場やバルコニーがあり、雨天でも身体を動かせる空間があります。1階には絵本のコーナーがあり、お迎えなどの時間に親子で絵本を読んだり、くつろいだりするスペースになっています。

園の玄関前には小さなログハウスやベンチがあり、歩き始めの子どもが保育士に見守られながら、散策を楽しんでいます。周りの花壇には桜、あじさい、柿、みかんなど季節の草花や木々が植えられ、季節感を感じることができます。

3歳児からは発達に沿ったカリキュラムで、数字や英語を遊びながら学んでいます。4歳児からは鍵盤ハーモニカの授業もあり、直接楽器に触れることで音楽の楽しさに親しんでいます。また、3歳児から専門講師の体操教室もあり、一人ひとりに合わせ、体の使い方、動かし方を身につけています。恵まれた環境のもとで、子どもたちは協調性や社会性をはぐくみ、感性豊かな思いやりの心を持った子どもに育つよう保育を行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月23日　（契約日）～ 2022年9月20日　（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1　回（　2015 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆自己肯定感を育て、自分で考えられるよう成長を見守る保育を行っています

園では、子どもが自分の気持ちや意見を保育士やほかの子どもに伝えられることを大切にしています。保育士は、子どもの言葉を肯定的に受け止めています。子どもたちが自己肯定感をはぐくめるよう、失敗しても取り組んだ過程をほめるなど、大きな家族のように、心が成長できる環境を整えています。保育士は、遊びの中で生まれた子どもの「どうしてだろう」「なぜだろう」とういう好奇心を大切にし、興味が広がるように言葉がけをして、自ら考えられるよう見守っています。幼児では、相手の気持ちも理解できるよう、みんなで考え、自分たちで問題を解決できるよう取り組んでいます。5歳児は子どもたちだけの「さくら会議」を開いています。

◆各計画の目標をリンクさせPDCAが回るようにすることを期待します

法人は2022年6月からの中長期計画を作成し、SDGsに基く持続可能な開発のための教育を掲げるなど、広い視野に立った内容になっています。持続可能な開発のための教育、ICT活用、地域とのかかわり、職員のスキルアップ、施設改修などを重点項目としています。今後は、課題と達成方針、数値目標と達成期日なども明示すると、職員が何をやるか明確になり、取り組みを促すことにつながるでしょう。また、計画期間も明示するとなおよいでしょう。さらに、中期計画と毎年の事業計画の課題、数値目標、達成期日をリンクさせ、取り組みの到達度と反省を翌期の計画に反映させるなどPDCAサイクルが回るようにすることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価では、園の現状を丁寧に聞き取って頂き、園の強み、弱みを客観的に理解することができました。研修を積極的に受講し、学びを深めてきた保育内容を評価して頂いたことは、保育士の励みになりました。又、法人の中長期計画に基づき、園の事業計画を策定していく中で、職員や保護者の意見を取り入れながら、具体的な課題や達成期日を設定し、PDCAサイクルが回るようにしていくという今後の園の目標を見つけることもできました。

日々の保育の中でも、振り返りや反省をクラス担任の間で共有し、考察を深め、PDCAサイクルを回して保育の改善に繋げていけるように園全体で取り組んでいきます。保育園の理念、基本方針は児童福祉法の改定以降見直しをしていなかったので、法人とよく話し合い、検討していきます。検討後策定する理念に基づいて、人事考課や職員の自己評価も見直し、更なる保育の質の向上に向けて取り組んでいきたいと考えます。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり